

国際自然保護連合日本委員会

国連生物多様性の10年における民間の取組・成果集約と国際発信による次期国際枠組みへの貢献

活動地域  日本全域

ひろげる助成

4年目

知識の提供・普及啓発

国際交渉解説
ブログ記事数

72件

オンラインイベント
参加者数

880人

今年度計画の達成度

50%

目標達成度

75%



国際会議参加をしたユースが世界で活躍

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

政策提言先である国際会議/交渉プロセスの延期や変化（オンライン化に伴うロビーイング機会の喪失）があり、事業の柱の一つが大幅な変更を強いられた。

■工夫した点

国内での政策提言はオンライン会議を活用し、全国規模で展開。イベントに複数分科会を設定し、ユース含む、ネットワーク団体の専門性をいかしたイベントを開催。

課題

愛知目標の合意から10年が経過。2020年までの目標達成に向けての更なる取組み強化とともに、10年の成果の把握と次期目標への日本からの提言プロセスを作る必要がある。

目標

日本の民間を中心とした愛知ターゲット達成の取組みと成果をまとめ、国内外に発信することを軸に、次期目標の担い手となるユースの参画や能力養成を図ることをめざす。

活動内容と成果

生物多様性条約COP15はプロジェクト期間内に開催されなかったものの、準備会合への参画、オンラインフォーラムの傍聴、海外情報の国内への展開、様々なNGOを巻き込んだ、ポスト2020枠組みを受けた国内検討へのインプット（環境省との意見交換5回、生物多様性小委員会での提言、オンラインフォーラムシリーズ計7回、880人参加）などを行い、フォーラム2022も開始することができた。
ユース支援については、団体の法人化、国家戦略小委員会のヒアリング機会の獲得（今回が初）など成果を上げた。



対面でも難航する国際交渉の様子

全助成期間の活動を振り返って

日本で採択された生物多様性の世界目標（2011-2020）の実施を振り返り、次期目標（2021-2030）への橋渡しを行う重要な事業であったが、新型コロナウイルス感染症拡大による延期やオンライン化に振り回され、政策提言機会がなかなか得られない不完全燃焼に終わった。一方、オンライン会議への対応、戦略会議、政府への提言などを実施し、事業としての成果とネットワーク内の経験知見の蓄積は大きなものとなった。

生物多様性国家戦略を考えるフォーラム ONLINE 2022

2030〈ネイチャーポジティブ〉をめざして

持続可能な漁業とシーフード

2022年3月18日（金）17:00～19:00

満員御礼

運営団体：認定NPO法人 野生生物保全論研究会（IWCS）
主催：国際自然保護連合日本委員会 共催：日本自然保護協会、ラムサールネットワーク日本、Change Our Next Decade、UNDB市民ネットワーク、アースデイ・エプリー、野生生物保全論研究会 協力：環境省

共通バナーで連続オンラインイベント

〒104-0033
東京都中央区新川1-16-10
電話：03-3553-4101
E-mail：iucnj@nacsj.or.jp
HP：http://bd20.jp/



今後の
展望

2年近くオンラインで開かれていた国際会議が、事業の最終年度の3月にやっと対面で開催。世界目標の合意が期待されるCOP15の開催目途も見えてきた。この間の議論を踏まえ、会員制度を変更し、より多くの組織と共同できる体制を作りあげた。COP15の成果を踏まえ、2030年までを見据えた事業と体制を2022年度は構築したい。